

(様式1)

平成31年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 004	提案機関名 セレサ川崎農業協同組合営農経済本部営農部営農指導課
要望問題名 タバココナジラミ・バイオタイプQの薬剤抵抗性の検定	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 川崎市内ではトマトの黄化葉巻病の発生が多く、地域によっては、発生株率が100%近い露地トマト圃場も見られている。当JAでは他県で公表されているタバココナジラミ・バイオタイプQの薬剤感受性試験の成績等を参考に、農業技術センターの協力も得ながら総合的な防除に当たっているところであるが、よりの確な営農指導を行うためには、地域の実態に基づいた効果的な薬剤の選定が必要である。 また、近年、タバココナジラミ・バイオタイプQにも効果があるとされる新剤の上市も進んでいるが、その裏づけとなるデータに関しては乏しい状況であるため、これら新剤を加えた標記感受性の検定をお願いしたい。	
解決希望年限	<input checked="" type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input checked="" type="checkbox"/> ①農業技術センター <input type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業技術センター	担当部所	生産環境部病害虫研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input checked="" type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合)			
対応の内容等 要望にありますように、コナジラミ類の発生地域、寄生植物等に応じて農薬感受性が異なることが推察され、場合によっては農家に異なる事例もあります。 一方、トマトについては、栽培期間が長いうえ、コナジラミ類がトマト黄化葉巻病を媒介することから、単純な薬剤感受性検定（殺虫効果）で判断することはリスクを伴う結果となります。 なお、現在、上市されている新剤については、日本植物防疫協会による新農薬実用試験（ほ場試験）で一定の防除効果が確認されています。 このような結果を踏まえ、これまでどおり予察会議による病害虫情報等を通じて、随時新剤を組み合わせた各時期の薬剤のローテーション防除をお示しします。			
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考			